学融合推進センター News Letter 第６号

The Center for the Promotion of Integrated Sciences (CPIS)　　November/2011

学融合推進センター　運営委員・協力教員のご紹介

ニュースレターでは学融合推進センターの運営に携わっている教員の方々よりいただいたメッセージをご紹介しております。

１．センター運営委員　小林　悟　教授（生命科学研究科）

学融合推進センターの運営委員となり、学融合研究事業における研究プロジェクトのあり方の検討や選考等を行なってきましたが、学融合を謳う研究プロジェクトの推進に難しさを感じています。当初は、それぞれ異なる学問分野を知る、すなわちリテラシーを共有すれば学融合研究がおのずと生まれるのではと考えていました。けれども、各分野で優れた研究を推進するべき先生方が中心となって学融合研究を行ない、部分的にも研究分担するにしても、やがて水と油のように分離する気がしてならないのです。学融合研究を軌道に乗せるには、これまでの研究を捨てる覚悟、柔軟な発想力と新たな分野を開拓するという野心、そして十分な研究費という拘束力が必要と思います。おそらく、これら条件をクリアできるのは若手教員ではないでしょうか。今後必要になるのは、失敗を恐れず、若手からの挑戦的な学際的プロジェクトに対し十分な研究費をつけ、新たな研究分野をある程度の期間インキュベートすることかもしれません。さらに、その前段階において、若手予備軍としての学生に対する幅広い分野をカバーする教育も重要なのではないでしょうか。この意味において、学融合研究とともに、学融合教育等を柱とする当センターの役割が果たす役割は大きいと思います。

２．センター運営委員　田辺　秀之　准教授
（先導科学研究科・センター協力教員）

私は今年の 4 月からセンター協力教員として基盤整備事業を担当することになった。この事業には、総研大の学術広報、学術交流ネットワーク構築や専攻間教育連携のためのハード整備が含まれ、専攻を跨ぐような基盤的事業を企画・実施する活動が位置づけられている。総研大は 6 研究科 21 専攻から成り立っているが、それぞれの現場でどのような教育研究活動が行われているか、実はお互いに知らないことがまだまだ多く、現在のところ知る必要性に迫られていないというのが実情であろう。この状況を打開し、少しでも異分野融合を推進できるきっかけを作り出すには、総研大の構成員同士で、誰がどこで何を行っているのか、どんな研究に取り組んでいるのか、お互いにその存在を認識できるような、自然な形で目や耳に入るような環境を整備することが必要であろう。その１つの方策として基盤整備事業があり、センターの重要なミッションの１つになっている。各基盤機関の HP をみると、それぞれ素晴らしく整備され、トップニュースにはプレスリリースや最新の研究成果などが掲載されている。また、各研究者への個別インタビューやコラムなども充実しており、研究内容の詳細も覗えるようになっている。しかし、全基盤機関の HP をそれぞれ開いて、個々の研究内容の情報を得ようとすると、膨大な労力と時間がかかってしまう。つまり全専攻を一覧したり連携的な視点からの情報を得るのが困難なのである。例えばこのニュースレターの中に各専攻ごとの教育研究の状況を発信してもらうコーナーなどを作ってみたならば、総研大の構成員同士の学融合を推進できるきっかけや素地になるかもしれない。微力ながら学融合の推進に向けてセンターの活動に協力していきたい。

学術交流事業からのご報告

学融合推進センターの学術交流部門では、大きく分けて２種類の事業を展開しています。学生、教員間の専攻を超えた交流や他機関・他大学の研究者、学生との交流を促進するための事業と、学生の総合的研究能力の育成事業です。今回は専攻を超えた全学規模の交流事業や他大学や機関を結ぶ交流事業を紹介します。

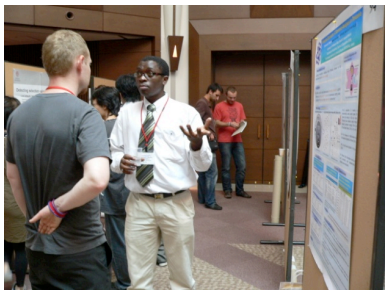
－　**国際シンポジウム：**シンポジウムのテーマに合わせて全学から教員・学生が集い、総研大全体の研究者の交流を図ります。

平成 23 年度のテーマは「リサーチ・リソース」。12 月 16～18 日に岡崎コンファレンスセンターにて開催予定です。海外招聘者 3 名、学内講演者 10 名、そして一般講演での講演者 2 名も決まり、着々と準備を進めているところです。博物館、加速器からバイオリソースプロジェクトまで総研大を構成する共同利用機関間の人的・物的・技術的交流を促進し、既存リソースの保存・発展と新規リソースの開発を目的として議論を行います。是非、ご参加ください。一般参加者の参加申込締切りは平成 23 年 11 月 25 日（金）です。詳細は右記 HP をご参照ください。　http://www.soken.ac.jp/news_all/2095.html

－　**学術交流会：**総研大の縦と横の学術ネットワークを構築するために、学位記授与式に併せて開催します。

今年度（平成 24 年 3 月 22～23 日）はそれぞれの分野で活躍している修了生を招請して自身が取り組んでいる研究活動に関してお話しいただくだけでなく、第一線の研究者である総研大の基盤機関の教員の学術講演を行います。学術展示ブース設営も予定しています。

－　**JSPS サマープログラム：**総研大の国際的学術ネットワークを発展させるために、JSPS フェローとの交流機会を提供するものです。



今年度はオリエンテーション： 6 月 15 日（水）～21 日（火）、研究： 6 月 22 日（水）～8 月 22 日（月）、報告会・送別会：平成 23 年 8 月 23 日（火）の日程で開催され、99 名のフェロー（USA, カナダ、ドイツ、フランス、イギリス）が参加しました。

オリエンテーション・プログラムは「日本に滞在し研究を始めるのに適応できるよう、ちょうど良い助けとなりました。日本語の授業では、コミュニケーションの基礎や礼儀を教えてくれました。」「ホームステイは日本の生活について多くの事を学べる最適な方法だと思います。私のホストファミリーは、大変友好的でとても楽しい週末を過ごさせてもらいました。」ととてもフェローにも評判が良いプログラムです。また、ポスターセッション（右写真）は総研大生にとっても、プレゼンテーションスキルを学ぶ良い機会になっています。　http://www.soken.ac.jp/education/iex/2011Jun.html

－　**学術ネットワーク調査：**他大学あるいは他国の学術ネットワークの構築やその効果について調査し、学外との学術ネットワークの構築をしたいと考えています。

本年度は平成 24 年 2 月に*北陸先端*科学技術大学院大学、奈良先端科学技術大学院大学を訪問し、当該期間の学術ネットワーク担当者とのインタビュー等により調査を行う予定です。

－　**大学院教育研究会：**学術交流事業の改善を目的として、学内外の大学院教育に携わる教員を招集し、大学院教育に関する研究会を実施するものです。この研究会は 12 月 15 日に一ツ橋の学術総合センターで開催予定の「グローバル化社会の大学院教育構築に向けて」で、3 回を重ねます。

今回は平成23年1月、大学院教育の実質化に向けた取組を一層強化することを基本に、明確な学位プログラムの確立、学生の質を保証する体系の整備が重要であること。さらに、博士課程教育については産学官の中核的人材としてグローバルに活躍する高度な人

材を養成するため、質の保証された教育プログラムの必要性が提言されたことを受け、日本の大学院教育の在り方、そして、研究所の中で大学院教育が行われている特殊事情をもつ総研大での大学院教育にはなにが必要なのか議論することを目的に研究会を実施します。12月には総研大生と他大学の大学院生との交流会（右パンフレット参照）を企画しており、その過程についての事例報告も予定しています。

また、平成24年1月には学術対話をテーマに大学院教育研究会を行うことを考えており、企画を練っているところです。いずれの研究会もご興味のある教員はどなたでも参加可能となっています。研究会の詳しい情報は http://www.soken.ac.jp/index.html をご覧下さい。

（文責：学融合推進センター　講師　岩瀬峰代）

学融合推進センター公開研究報告会
開催概要決定のお知らせ

学融合推進センターでは、学融合研究事業として遂行されている研究課題の経過報告及び成果発表の場として、昨年度より公開研究報告会を開催しております。今年度は平成２４年１月１２・１３日の二日間に渡り、葉山キャンパスにある学融合推進センター棟にて開催されることとなりました。是非ご参加いただき、本学における学際的研究の発展に向けた活発な意見交換の場としてご活用ください。

学融合推進センター HP：http://center.soken.ac.jp/act/s61umn0001111au.html

＜開催概要＞

日程：平成２４年１月１２日（木）１３：３０～１月１３日（金）１２：３０

場所：総研大葉山キャンパス学融合推進センター棟１F ホール　他

註）参加人数把握のため，事前の申込みをお願いしております。詳しくは上記 HP をご覧下さい。

学融合推進センター客員研究員　小林　登志生　先生
ー　「SOKEN-OER」プロジェクトの紹介　ー

オープン・エデュケーショナル・リソース（OER）とは、「再利用可能な蓄積されたデジタル資産を他の人々が制限されることなく利用できるという利益」を意味している（2007 OECD）。この再利用可能な学習素材・教材を広く無償で提供し活用するという OER コンセプトは、ユネスコ・OECD 等の国際機関も早くから注目し、先進諸国における OER 実状調査プロジェクトが経済協力開発機構（OECD）により実施され（2006）、その報告書が英仏語で刊行された（2007, Giving Knowledge for Free - The Emergence of Open Educational Resources, OECD/CERI, www.oecd.org/dataoecd/35/7/38654317.pdf）。私は、同プロジェクトの日本国内動向調査を担当し、その後 OECD の要請により、当時のメディア教育開発センター（NIME）の研究チームと作成した最終報告書の日本語全訳版が発刊された（2008）。

その後、2010 年初頭に、教育における情報技術活用を主事業とするモスクワ所在のユネスコ機関（Institute for Information Technologies in Education-IITE）が、ロシア語による新たな OER プロジェクト立ち上げを企画し、上記 OECD による OER 初期動向調査に関与し、日本ユネスコ国内委員でもあった私に参加協力要請があった。私は、既に現役を退いた身であったが、これまでイーラーニングおよび先端情報通信技術（ICT）を用いた教授・学習手法が欧米、英語圏主要諸国により西欧的価値観および欧

米派生のモデルに基づき英語のみにて主導されている実情に異議を唱えてきた者として、複数民族に使用される主要言語の一つであるロシア語による OER 利用・生産・開発プロジェクト立ち上げは意義あるとして、要請を受け入れた。

そのあらたな国際研究活動のベースとして、高畑学長のご高配により、2010 年 3 月より、現役時代にその専攻の一つ「メディア社会文化専攻」に携わった総研大の特任研究員となった。OECD,ユネスコの OER プロジェクト関与を契機に、総研大の有する OER 生産・提供可能機関としての高い潜在性に着目し、2010 年 5 月に、高畑学長のご支援と情報ネットワークセンターの洞田先生の協力を得て、NIME 時代の研究仲間によるチームを組織し、新たに本研究プロジェクトを立ち上げた。その目的は、全学イーラーニング推進の一環として、広く全国に所在する傘下の専攻を置く大学共同利用機関等の基盤機関で蓄積された「知の資産」の実情把握、それらの素材を OER として国内外に提供する方策、および総研大 OER を学習教材として用いた海外との遠隔教育・研究交流の可能性を検討することにある。その目的に向け、OER の内包する多様な観点を盛り込んだテーマを設定し研究集会（ワークショップ）を、海外専門家による遠隔参加も含め、定期的に企画実施している。現在は、本プロジェクトの学内における位置づけも定まらず、OER というあらたな概念の理解促進のため啓発的な活動を行っているのみであるが、将来、各専攻で本件プロジェクトのアイデアに賛同し、その推進に関与し支援、協力してくれる研究者を得られれば、SOKEN-OER を通して総研大に蓄積されたデジタル資産を広く国内外に提供することも夢ではないであろう。

本プロジェクトのワークショップにおける発表内容については総研大リポジトリ参照:
http://ir.soken.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=30&page_no=1&list_view_num=50&sort_order=16&page_id=29&block_id=93

学融合推進センター　その他の事業予定

１１月から２月にかけて現在のところ予定されている事業は以下の通りです。各事業の詳細・実施状況につきましては本学のホームページに掲載されております。是非とも、ご確認ください。　総合研究大学院大学 HP： http://www.soken.ac.jp/event/index.html

○　実践的大学院教育研究会「グローバル化社会の大学院教育構築に向けて」
　【開催日時】　平成２３年１２月１５日（木）
　【実施場所】　学術総合センター
○　総研大国際シンポジウム「リサーチ・リソース」
　【開催日時】　平成２３年１２月１６日（金）～１２月１８日（日）
　【実施場所】　岡崎コンファレンスセンター
○　平成２３年度　学融合推進センター　公開研究報告会
　【開催日時】　平成２４年１月１２日（木）～１月１３日（金）
　【実施場所】　総合研究大学院大学　葉山キャンパス内　学融合推進センター棟

編集委員会より

秋も深くなり平成２３年度もいよいよ終盤へとさしかかって参りました。来年２月発行の次号ニュースレターでは基盤整備事業からの報告を予定しております。今後とも学融合推進センターの活動にご支援、ご協力をお願いいたします。

（文責：学融合推進センター　助教　見上公一）
学融合推進センター HP： http://center.soken.ac.jp/index.html